



「就実初等」の伝統を 創っていきましょう

初等教育学科長 北川 歳昭

初等教育学科は、乳幼児期や児童期の子どもの教育に携わる人材を育成する学科です。学科のアドミッションポリシー(求める人材像)の4項目について少し解説します。

(1)子どもが好きで、子どもとのふれあいに喜びを見いだせる人。これはこの学科の学生としての大前提です。子どもが好き、大人も好き、人間大好きな人がこの学科にふさわしいと思います。(2)子どもの幸せのために、知識を広げ、技能を高め、思考を深めることに意欲的な人。何のために勉学するのか。自分のレベルアップが子どもの幸せになることを自覚しましょう。(3)人格や発達の多様性を受け入れ、一人ひとりの成長可能性を信じることのできる人。子どもは一人ひとり個性があり可能性があります。決めつけず、見限らず、あきらめず、です。(4)人と人の絆を大切に、人を導いたり支えたりすることに勇気をもって挑戦する人。人との関わりで一步を踏み出す勇気を持ちましょう。

これらは学科が求める人材像ですが、同時に皆さんが目指す人格的成長の目標でもあるでしょう。ときどき自分を振り返ってみてください。今している学習や体験を自分の生きる目標と関係づけることで、皆さんの大学生生活が実り多いものになるに違いありません。

ガイダンスでもお話しましたが、新入生の皆さんに具体的な4つのアクションを提案します。(1)挨拶をしましょう。挨拶は人間関係の基本です。授業の最初と最後はもちろん、教職員だけでなく、来客にも、学生同士でも、互いに明るい気持ちになる挨拶を心がけましょう。(2)しっかり学びましょう。入学当初の緊張が少しゆるんでいませんか。自分を甘やかさず、鍛えましょう。(3)課外活動、ボランティア活動に参加しましょう。子どもの遊びが発達を促すのはそれが自発的活動だからです。自発的・自主的な活動で皆さんの能力を開花させましょう。(4)目標と計画を立てましょう。心がけしだいで、4年間のうちに大きな差がつきます。卒業後の進路をにらんだ履修計画を立て、実行しましょう。

生まれただけの初等教育学科を育てていこうと教職員一同燃えています。1期生の学生の皆さん、この「就実初等」の新しい伝統をぜひ一緒に創っていきましょう。

初等教育学科教員紹介

写真

1. 名前(なまえ) [職位]
2. 担当科目
3. 好きな○○ (50音順)

1. 相原 久仁男(あいはら くにお) [教授]
2. 教師論、教育学概論、教育課程論(他学科)、学校論(他学科)など
3. 好きなこと: 異言語(→異文化)接触。独・英・中・朝には毎日接触、不定期的には仏・伊・西・希(古典ギリシア語)・羅(ラテン語)にも必要に応じて接触、皆さんも言語世界への扉を開けましょう!

1. 赤坂 英二(あかさか えいじ) [准教授]
2. 総合演習、教育保育インターンシップ、小学校教育実習など
3. 好きな言葉: 「我以外、皆我の師なり」
宮本武蔵の言葉とも言われ、後に作家の吉川英治が好んで使ったとも言われています。わたし自身周りの人から

教わり支えられ生きてきました。これからも、この言葉を大切にしていきたいと思っています。

1. 秋吉 博之(あきよし ひろゆき) [准教授]
2. 総合演習、幼児の環境、理科、理科教育法など
3. 好きな言葉: 「学び続ける心」
大学で学んだことだけでは授業や保育は通用しません。教育現場で常に授業や保育を工夫していくことが必要になります。そのためには大学で知識を得ると共に「学び方を学ぶ」ことが大切だと考えます。

1. 門松 良子(かどまつ りょうこ) [准教授]
2. 教育課程論、保育内容総論、幼児の言葉、幼稚園教育実習、総合演習など
3. 好きなこと: 「子どもと話すこと」
「先生、何歳?」「何歳だと思う?」「うーん、13歳くらいかな?」「うん、そのくらいかな」「じゃあ、先生は11歳から13歳までが、ずーっとあったのね!」「どうして?」「だって私のお姉ちゃん、11歳だもん!」「!!!」子どもと話してると思わず顔がほころんできます。

初等教育学科教員紹介



1. 河合 富美子 (かわい ふみこ) [教授]
2. 児童福祉、施設保育実習など
3. 好きな花：野の花。新春早々野に出ると、日だまりでオオイヌノフグリがコバルト色の花を咲かせている。自然の息吹きにふれつつの七草摘みは幸せを感じる一時である。地味な野の花は、しばしそこに佇んで静かに語りかけたくなる。



息子(2歳1ヶ月)作「おかあさん」

1. 原 奈津子 (はら なつこ) [准教授]
2. 心理学の世界と歴史、社会心理学、コミュニケーションの心理学など
3. 好きな暇つぶし(要は趣味)：実験的料理。まずければその要因を考え、1つずつ要因をつぶしながら成功するまでしつこく作る(研究に通ずるなあ)。おいしくできれば、それが再び食卓にのぼるのは遠い先のことに。



1. 北川 歳昭 (きたがわ としあき) [教授]
2. 教育心理学、発達心理学、精神保健、幼児理解とカウンセリングなど
3. 好きな言葉：「ある不幸は善人をますます善人にし悪人をますます悪人にする」。不幸な出来事(トラブル)は人を不快にさせ、試し、鍛えます。不幸に負けず、それを糧にして自分の中にある善人を育てたいものです。



1. 藤井 貞子 (ふじい さだこ) [教授]
2. 音楽Ⅱ・Ⅲ・Ⅵなど
3. 好きなこと：思いつくまま気の向くまま出かけた場所で風のそよぎや水の音、鳥の鳴き声などを感じながら、その場所(街)の歴史やおいしい食べ物に出会う「旅」が好きです。



1. 古山 典子 (こやま のりこ) [講師]
2. 音楽Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ、音楽科教育法など
3. 好きな音楽：いろいろあるのですが… W.A.Mozartの未完の遺作《レクイエム K.626》。Mozartはそのほとんどを完成させることなく世を去り、弟子や後世の音楽学者らによって補筆されています。誰がどう補筆したのかを、音で聴き比べるとおもしろいですよ!



1. 藤田 知里 (ふじた ちさと) [講師]
2. 図画工作Ⅰ・Ⅱ、幼児の造形表現など
3. 好きな画家：パウル・クレー 激烈なカンディンスキー、エキセントリックなイツェン等の同僚に囲まれて、クレーは「バウハウスの良心」と呼ばれていたそうです。作品からもその人柄が伝わってきます。



1. 佐藤 和順 (さとう かずゆき) [准教授]
2. 保育原理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなど
3. 好きな言葉：「サルも木から落ちる。でもまた登ればよい。」得手なことでさえも、失敗が起こりうるのです。不得手なこと、苦手なことならなおさらです。失敗した地点でとどまっていたら、その先の進歩・成長はありません。



1. 本田 真美 (ほんだ まみ) [准教授]
2. 総合演習、小児栄養など
3. 好きな時：のんびりとお茶を飲むことが出来た日はとても幸せな気分になります。



1. 棚田 真由美 (たなだ まゆみ) [講師]
2. 国語Ⅰ・Ⅱ、国語科教育法など
3. 好きな絵本：『スイミー』。仲間の小さな赤い魚たちの中で、一匹だけ黒いスイミー。みんなで集まって大きな魚のふりをするときのスイミーの言葉「ぼくが目になろう」から、自分の個性を生かして何ができるかを考えさせられます。



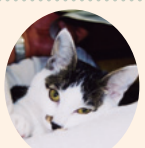
1. 宮川 洋子 (みやかわ ようこ) [准教授]
2. 乳児保育、幼児の人間関係、保育所実習など
3. 好きな言葉：「たとえ世界が明日終わりであっても、私はリンゴの樹を植える」



1. 竹中 伸夫 (たけなか のぶお) [講師]
2. 社会科教育法、社会、総合演習
3. 好きな歴史上の人物：上杉鷹山 米沢藩の第9代藩主である彼は、「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり」を信念として掲げ、逼迫した藩財政の再建に努めた。結果的に実現しなかったとしたら、それはすべからく自身の努力不足のせいである。いい意味で自分を追い込み、自らの任を全うした彼に習い、私も教育・研究活動に精進したいものである。



1. 宗高 弘子 (むねたか ひろこ) [教授]
2. 体育Ⅰ・Ⅱ、幼児の健康など
3. 好きなこと：ゴルフをすることです。広々としたグリーンの中でプレイする時、私は何もかも忘れて夢中になれます。月一回のゴルフ場での人間ウォッチングも楽しみの一つです。



1. 村田 恵子 (むらた けいこ) [講師]
2. 養護原理、養護内容、教育論の世界と歴史など
3. 好きな動物：猫が大好きです(しっぽが長ければ、言うことなし)。猫のみならず、「アザラシをストーカーしたラッコ」「洪水で流されないよう踏ん張っている子ブタ」等々、動物に関するニュースが気になります。一日一つ、ほのぼのした話題を探るのが日課です。

行事

(1) 研修旅行

2007年4月13・14日、初等教育学科の学生と教員で兵庫・徳島へ研修旅行に行きました。
1日目は神戸市立須磨海浜水族館、淡路人形浄瑠璃館を訪れ、ホテルで交流会を行いました。
2日目は大塚国際美術館、あすたむらんど徳島を訪れました。

「研修旅行について」

1年 大平 麻由

私が研修旅行で一番心に残っている場所は「あすたむらんど徳島」です。ここは小学校低学年の子どもが行くような所なので、はじめは大学生の私達が行って、本当に楽しいのかと思っていました。しかし、実際に行って遊んでみると、大学生の私達でも驚くことが多くあり、楽しかったです。

ここでは、月の重力体験や目の錯覚など科学の不思議を知ることができます。私でも驚くのだから、幼い子ならもっと驚くと思います。

「あすたむ」というのは「明日多夢」と書くそうです。実際にそうだと感じました。そして、子どもに関わる仕事につきたい私にとって、子どもの気持ちになれて遊べたことはとても良い経験でした。



あすたむらんど徳島

「思い出に残った研修旅行」 1年 仁科 奈瑠美

この旅行に行く前はまだ友達が少なく、とても不安な気持ちでいっぱいでした。でも、そんな気持ちとは反対に、ホテルについてのクラス発表やレクリエーションで、お互いのことを知ることができました。また、クラス対抗のジェスチャーゲームなどでは、協力し合って、盛り上がり、とても楽しかったです。クラス発表では、練習があまりできなくて成功するか不安だったけれど、観客のみんなと一緒に歌ってくれたり、手をたたいてくれて、とても嬉しかったです。みんなの優しさや思いやりに気づかされました。

帰る頃には、出会った友達に自分から声をかけられるようになっていました。

この初等教育学科の友達は本当に明るく、元気な人が多くて、素敵なお学科だと思いました。これから4年間、みんなと一緒に頑張っていきたいです。



ホテルにてクラススピーチ

(2) 施設見学

2007年5月12日と26日、初等教育学科の学生と教員が2グループに分かれて、長島愛生園を訪れ、入所者の方からお話をうかがいました。

1年 帰山 知也



園内見学

まず最初に施設を見て回った時に、自分が思っていた以上に酷い仕打ちがされており、非常にショックを受けた。ニュースや新聞などで、どんなことがあったのか、どんなものなのかを知っていたつもりだったが、自分の目で見て考えてみると、比べものにならなかった。時に資料室で、昔の新聞記事や文書を読んでいると、目をおおいたくなるような悲しさだった。今の価値観・国の非人道的な指示がないから自分はそう感じるのかもしれないが、それにしてもひどすぎる。

入所者の方のお話を聞いて、上のようなことを見た後だったので、もっとネガティブなのかと思っていたが、お話をしてくださった先生は堂々としていて、まったく

そんなことを感じさせず、とても強い人であるように感じた。しかしながらお話自体は凄惨なもので、特に自分の子どもがハンセン病にかかっていると思いこみ、心中をはかったというのを聞き、涙が出そうになった。

施設見学を終わり、最後に講師の先生がおっしゃっていた「お互いが認め合い共生のできる社会」というのが強く心に残っている。こういう社会を作っていくため、普段からこの学んだことを忘れないだけでなく、身近なところから伝えていきたいと思う。

1年 早川 知恵

長島愛生園に施設見学に行ってみて私は色々なことを学ばせてもらいました。私は今までハンセン病という病気は学校で配られたアンケートでしか見たことがなかったので、今回、長島愛生園に行くと建物の中を見たり、入所者の方の話聞かせてもらおうと言われた時、あまり行く気がしませんでした。でも実際行って見て、私は入所者の方々が私の想像していた以上の苦しみを乗り越えてきていたことを初めて知りました。病気をもっているからといって人間が人間として扱われず、消毒液をかけられ、親・兄弟からも差別を受けるなんて残酷だと思

ました。私は話を聞いているとき、あまりにもひどすぎて涙が出そうになりました。国の最高機関がハンセン病の安全性を認めたにも関わらず、未だに世間の反応は冷たいという話も聞かせてもらい、人間の恐さを知りました。しかし、それにも負けず前向きに毎日を過ごされている入所者の方々はとても強く、とても感動しました。施設見学を終えて、病気のことを知ろうともしないで病気を抱えた人々を差別するのではなく、自分から病気のことを知ろうとすることが大切で、そして入所者の方々のことを最も理解してあげられる方法だと思いました。今回

のこの貴重な経験を生かして、ハンセン病のことをもっと詳しく調べ、あまりハンセン病について知らない人にどんなに安全かを教えてあげようと思いました。本当にこの施設見学は私にとって色々なことを考えさせられた一日でした。



万霊山納骨堂にて献花 長島愛生園歴史館

(3) 平成19年度就実教育実践セミナー コンスタンス・カミイ博士講演会



コンスタンス・カミイ博士

2007年5月9日、アラバマ大学教授コンスタンス・カミイ先生をお招きして「教育の目的としての自律性ー自律性の発達を促す集団ゲームー」という題でお話をさせていただきました。

1年 片山 小夜子

子どもは大人から教えられることの方が多いかと思っていたけれど、子ども自身の自律性を成長させるためには、大人と子どもの意見のやりとりが大切であるということをしっかり学べました。そして、子ども自身が内部から構成していくというピアジェ博士の考えや教えること

とができて良かったです。

正しいことや間違っていることをそのまま子どもに伝えるのではなく、子どもの答えを大人が導いていくことが大切だと思いました。

1年 久野 真理子

大人と子どもの考え方の違い、大人は押しつけてルールを教えたり、知識を身につけさせようとしたりするが、子どもは子どもできちんと考えて新しい遊びを作り上げることができるのだから、全てを否定したりするのではなく、認めたり待つことが大事なことだとわかった。

自律性にも種類があることや、ご褒美を与えることは他律性を高めてしまうことなどを初めて学んだ。

講演会の話は、知っていたことでも改めて感じるものがあったし、とても勉強になった。

◆初等教育ニュース

●新校舎完成予定!

現在工事中の新校舎は2007年9月末に完成し、10月から授業等で使用する予定です。2008年3月には校舎の近くに「西川原・就実」駅も完成します。

●就実こどもフェスタ

2007年6月23日、就実こどもフェスタが行われました。初等教育学科の学生も看板作りや受付など手伝いました。

●教育保育インターンシップ

夏休みの期間中、インターンシップ(職場体験)として学生が保育園、幼稚園、小学校へ出かけていく予定です。



新校舎完成図

●ホームページ

初等教育学科についての情報は、ホームページでもご覧いただけます。アドレスは

<http://www.shujitsu.ac.jp/web/department/cultural/elementary/index.html>です。随時更新中です。

編集後記

「初等教育だより 色えんぴつ」創刊号をお届けします。この題名は、初等教育学科1期生が考え、名付けたものです。さまざまな色の色えんぴつのように、初等教育学科に集ったさまざまな個性を持つ学生、教員が、お互いの個性を認め合いがんばっていこうという気持ちをあらわしています。いろんな個性の色えんぴつで描く初等教育学科という一枚の絵はどんな素敵な絵になるでしょうか。(真)

編集委員：秋吉博之、古山典子、棚田真由美、原奈津子(50音順)